

に利用するんだなというふうにしないと多分バス利用がふえないと、そのように思ってますんで、観光交流センターの駐車場の話から違うところ行って恐縮ですが、そういうところも含めてぜひ鈴木議員のほうからは女性の視点とか地元の方々の考えなども通していろいろご提言いただければと思います。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長からは貴重なご意見ありがとうございました。

やはり私たちもバスには乗って育ってこない自転車組でしたので、やはり何かバスが通っても乗れないかなという思いはありますので、ぜひ高校生の送り迎え大変ですので、いい考えだと思いますので、ぜひ実行していただきたいと思います。

また、観光交流センターと公園の件ですが、やっぱり時間とお金がかかると思います。皆で知恵を出し合って、本当にいい公園を整備していただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

私からの質問は以上です。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで、暫時休憩いたします。

再開は、3時10分といたします。

午後 2時50分 休憩

午後 3時10分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

宇津木正紀議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位5番、議席番号1番、宇津木正紀議員。

(1番宇津木正紀議員登壇)

○**1番 宇津木正紀議員** 私は、生きがいと活力がある長井市になることを願ひまして、一般質問いたします。

最初の大項目の質問事項は、通告どおり、除雪・排雪対策についてであります。

いよいよ雪が降る季節となりました。きょうまでは暖かい日が続いていますが、去年までは4年連続の豪雪ということで、今シーズンはこのまま雪が少ないことを願っておりますが、なかなか願ったとおりにならないのが現実であります。まず、雪といえば除雪であります。道路除雪では当市では平成26年度において、約5億2,300万円の支出をしています。私によく言われるのは、米沢市とか南陽市からいらっしゃった方は、長井市に来られると、長井市の道路には雪が少ないねと、除雪がよくされているという感想いただいております。

私が道路除雪で最も心配しているのは、機械除雪の運転手さん、オペレーターであります。そのオペレーターの確保の問題であります。オペレーターが高齢化しまして、人材確保が難しくなってる状況であります。一番心配されるのは、オペレーター不足で道路除雪ができなくなるんじゃないかというおそれを感じております。そのようなことにならないように当局には人材確保対策を十分にしていきたいとお願いしたいと思います。

そのためには十分な労務費の確保はもちろんですが、オペレーターのやる気、モチベーションをいかに維持していくかということも重要なことだと思います。降雪がある日、オペレーターは早朝というか、午前2時には除雪体制に入らなければならないということで、降雪が続けば、連日このような体制となるということで、

オペレーターの方によっては、雪の降り始めから春まで、好きなお酒を断って作業に当たる方もおられると聞いております。ぜひ、苦勞の多い除雪オペレーターに光を当てていただきたい。また、除雪作業中に市民がトラブルに遭っているところに遭遇することもしばしばあるそうです。車が雪の吹きだまりなどで動けなくなる。そのような車をお助けする例が多くあると聞いております。さらに、私の近所では、雪捨てをしていた高齢者が、スノーダンプごと川に落下してしまい、川は雪の壁でありましたので、はい上がれなくなったという事件がありました。ちょうど道路の機械除雪をなされていたオペレーターが冷たい川に、若い2人でありましたが、川に入って、ずぶぬれになって救助されたということをお聞きしたことがあります。まさに人命救助であります。

このようなオペレーターの顕彰をぜひ検討いただきたいというふうに思います。例えば市民表彰式にオペレーター歴の長い方や人命救助等の市民をお助けした方などに感謝状の贈呈などを検討していかがでしょうか。市長にお伺いします。

次の項目であります。排雪の雪捨て場についてであります。長井市には排雪の雪捨て場が2カ所あります。さくら大橋、それから野川橋付近であります。豊田地区、特に南部になりますが、そちらからこのさくら大橋の雪捨て場は遠くて、近くに飯豊町の白川にある雪捨て場が近いので、これを利用できないかという声が以前からありました。たまたま去年は豪雪でありまして、さくら大橋付近の雪捨て場がパンクしそうになった。そういうことで飯豊町の白川の雪捨て場を使わせていただいたところ、大変好評であったというように聞いております。今年度も利用させてもらえないか、飯豊町にお願いできないか、建設参事にお伺いします。

次の大項目の質問事項は、高齢者世帯の間口

除雪等であります。

除雪問題は特に高齢者の定住に大きくかかわる問題であります。高齢者のみの世帯では除雪に限界があります。除雪できなくなると、冬期間住めなく、やむを得ず子供の家同居するなど移住に至る例を見てまいりました。高齢者世帯の間口除雪が課題だというふうに思います。

高齢者が安心して冬を過ごせる仕組みが必要だと思います。長井市でも大都市の高齢者を地方に移住促進する日本版C C R Cの研究をしようとしていますが、今現在住んでいる高齢者が安心して過ごせる自治体でないと、ほかからの移住はなかなか進まないのではないのでしょうか。

当市で行っている高齢者世帯の間口除雪サービスについて伺います。

山形県雪対策総合交付金対象事業として現在実施している高齢者生活支援除雪サービス事業による平成26年度の実績は、除雪、これは雪おろしになりますが、こちらが対象者83人で、延べ113回。雪かき、こちらが間口除雪になると思いますが、対象者25人に対して、総時間数が310.5時間というふうになっております。これで十分なのでしょうか。福祉あんしん課長に伺います。

次に、除雪ボランティアについて伺います。

社会福祉協議会で行っている除雪ボランティアの実態は、どうなっているのか。現在の登録者数、昨年度の実績と福祉あんしん課と社会福祉協議会の連携について、同じく福祉あんしん課長に伺います。

人口減、少子高齢化による地域力低下のそちらの対応が必要なのではないのでしょうか。高齢者世帯の間口除雪について、新たな支援制度を検討すべきではないのでしょうか。

また、冬は雪だけでなく寒くもあります。高齢者世帯の寒さ対策も検討すべきではないのでしょうか。満70歳以上の高齢者世帯等に対して、灯油購入助成事業が平成25年度と26年度実施さ

れました。平成26年度の主要な施策の成果報告書によると、高齢者・障がい者・ひとり親世帯877世帯に対し灯油購入費用の一部として世帯当たり5,000円を助成しております。27年度についてはどのように取り組むのか、現在の検討状況について市長に伺います。

3番目の大項目の質問事項は、新たな子育て支援センター・図書館等の複合施設の構想であります。午前中も五十嵐議員に市長は答えていますが、もう少し踏み込んでお答えいただきたいと思っております。

今回の「あやめR e p o」11月1日号で、第32号であります。こちらのうちのほうにリーディングプロジェクト②子育てワンストップサポート体制の整備ということで、子育て支援施設（多機能型複合施設）であります。子育て包括支援センター、ファミリー・サポート・センター、屋内軽運動施設、多機能型図書館というものが示されておりますが、この具体的な内容、イラストで非常にわかりやすく今回出ているんですが、現在の検討状況について1点と、あと今後の方向性、中心市街地活性化と関連の3点について市長に伺います。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木正紀議員からは3点ご質問いただいております。順次お答えをさせていただきますと思います。

まず最初に、除雪・排雪対策についてでございますが、宇津木議員からは南陽や米沢の市民からは長井は除雪丁寧なされてるなと褒めていただくということで、私どももそういうふうに言っていただくと大変ありがたいなうれしく思います。

平成26年度、この3月までの冬は、長井市恐らく今まで始まって以来の除雪費だったというふうに思います。約5億5,000万円。通常がか

つては2億円前後ということで、ただ、過去4年間を見ますと昨年の前の3年間も非常に大雪で、3億円から3億5,000万円ぐらいかかっておりました。そこから見てもプラス2億円以上の増加だということで、本当に大変な思いでございました。

そのときに3市5町でどのぐらいの除雪費がかけられているかということ調べていただいたところ、米沢市が11億円出しています。米沢市は、恐らく私どもの長井市の市道の3倍ぐらいあるんじゃないかなと思って見えています。山手のほうにもずっと人住んでいらっしゃるんで。

ただ、私ども長井は、幸いなことに本当にまちなかコンパクトに、周りの5つの拠点はあるわけですが、そういった状況なので、そこから言うと少し米沢よりいいのかなと思ってました。

あと南陽は、2億5,000万円ぐらいでした。ですから南陽と恐らく市道的には同じぐらいだと思いますので、南陽はうちより雪は少ないというものの、やはりあんまり丁寧だという話は聞いてなかったんで、ただ飯豊町と小国町と川西町の少ないことにはびっくりしました。2億円ぐらいしかかけてないんだそうです。なぜかという町道が少ないんですね。国道と県道が多いと。あとやっぱり人が住んでる戸数が少ないので、それだけ路線も少ないんだと思います。

そういった意味で、ちょっと余計なことではございましたけれども、道路の機械除雪のオペレーターの確保についてというのは、議員ご指摘のとおり極めて重要な課題です。土曜日にも国土交通省の地元出身のキャリアの官僚の方を、米沢出身の方をお招きして、いろんな意見交換、勉強会したんですが、建設業界の皆さんおっしゃったのは、どんどんどんどん高齢化が進んで、後継者が入ってきてくれないと。業界自身の問題もあるんだけど、我々自身も頑張っていけないといけないということでした。

そこで出てきたのは、機械設備もこういう時代なものですから、かなりオートメーション化ができるんじゃないかと。例えば道路と雪の間のところをやっぱり感知して自動に上げたり下げたり、あるいは障害物あるとそこを下げたりとか、そういうふうな技術がどんどん進んでいるということでございまして、ある程度オペレーターのいわゆる熟練の技術といたしますかね、それだけに頼ってるだけじゃなくて、そういったことも今後進めていかなきゃいけないというような国のほうでも指導していくということでございました。

ご提言の件でございますが、除雪のオペレーターの方には、議員のほうからもありましたように、降雪があれば未明から、大体2時半とか3時ぐらい出勤して、それから現場に着いてやるわけですから、夜間、そして雪が多い日ですともうほとんどフル回転で仮眠をとってやるというようなまことに苛酷な作業体制だというふうに私も認識してるところでございます。

議員からご指摘ありました災難に遭遇し、臨機応変の措置により人命を救出、救助し、他の模範になる方につきましては、これまでも市民表彰式の際に感謝状を差し上げてきた例がございます。

ただ、除雪の機械オペレーター、長年なさってたということでの顕彰については、少しその基準がなかったのかなというふうに思ってます。ぜひこれらは今後そういった項目も加えていくべきだなと。本当に大変なお仕事なものですから、そういったところ幾ら仕事とはいえ本当にそういった使命感には敬意を表したいと思えますので、今後、感謝状等の顕彰をしていきたいというふうに思います。

最初の件については、そんなことで今後とも私ども業界のほうと含めて人材育成、あるいは人材の確保についても努力してまいりたいと思えます。

続きまして、2点目の高齢者世帯の間口除雪等に関しての件でございますが、やっぱりこれから寒い時期ということで、寒さ対策も検討すべきでないかということでございますが、議員からは灯油購入費の助成事業について今年度も実施すべきじゃないかというようなご提言でございます。

議員からございました灯油購入助成事業、いわゆる福祉灯油については、平成19年度、20年度、そして25年度と26年度、4回過去行っておりまして、これは主に灯油の高騰の際に生活困窮者を対象として実施してきたところでございます。

現在の灯油価格の推移は、高値安定と言われた昨年に比較いたしまして山形県では18リットル当たり535円ほど値下がりし、昨年と状況は違いますけれども、今年につきましても県のほうで助成事業を検討してるという情報も得られますので、県の助成制度の実施状況などいろいろ情報等を判断して、時期を踏まえながら判断していきたいと。県がするときには長井市もいち早く一緒にやりたいというふうに考えてるところでございます。

次に、最後の3つ目のご質問でございますけれども、子育て支援センター・図書館等の複合施設の構想についてお答え申し上げます。

まず最初に、現在の検討状況と今後の方向性についてお答え申し上げます。

議員のほうからは「あやめR e p o」なども示していただきながらご質問いただきました。子育て支援などの複合施設構想の現在の検討状況及び今後の方向性について、関連しますので、あわせてお答えをさせていただきたいと思えます。

この複合施設につきましては、若い人から高齢者まで、小さいお子さんから高齢者までと言ったほうがいいと思えます、市民の方々から強い要望があつて、9月に策定いたしました総合

戦略でもリーディングプロジェクト10の中の一
番重要な部分だというふうに位置づけしてござ
います。

午前中の五十嵐議員のご質問にお答えしまし
たように、私も昨年の市長選の際には自分の公
約の一つとして掲げておりました。それは平成
25年度に子ども・子育て会議というのがあった
んですが、その際に市内の幼稚園、小学校、中
学生の保護者の方々にいろんなアンケートをと
らせていただきました。回答率も高かったんで
すが、それ以外に自由にご記入くださいという
中で多かったのが、とにかく冬場、雨の日の子
供の遊び場所がないと、あるいは子育て支援セ
ンターをもっと充実していろんな子育てに対し
ての悩みとか応援をしてほしいという声が多数
ございまして、これは非常に重要なことだと、
長井市も財政再建が終わって、これからという
ときにまず新たにつくる部分もきちっと手だて
しなきゃいけないと。

今、公共施設は、リニューアルとか大規模改
修とか、あるいは改築、新築を求められてるも
のはあるんですが、それは今まである機能、施
設です。これだけじゃなくて、ないもの、やっ
ぱり子育てと教育を力入れていくとしたらそこ
をやっぱり置賜にない施設ということでこうい
った施設をつくりたいと考えたところでござい
ます。

現時点では市民から特に要望の多い子育て包
括支援センター、またファミリー・サポート・
センターなど子育てサービスがワンストップで
受けられる子育て支援施設やコミュニティー機
能を持つ多機能型図書館、老人福祉センターも
今TASの隣にあります。駐車場もなく、施
設も古いということから、こういったものの機
能、それから子供から高齢者まで雨天時や冬期
間も利用できる健康増進機能も備えた屋内型
軽運動遊具施設などの整備を考えております。

場所につきましては、主に長井駅南、南東側

の現在長井アパレルさんの土地で利用してない
部分も使わせていただくことでグンゼ株式会
社の本社もお邪魔してきましたし、先々月です
か、10月の末には児玉社長ともお会いして願
いまして、11月13日ですね、そしてそうい
ったときはご協力するというようなことでござ
承を得たところでございます。

今後は、市内のまずはプロジェクトチームで
詳細を検討しながら、そして市民や有識者の
方々にも加わっていただき、協議を行い、より
充実した市民が望むような施設の構想をつく
ってまいりたいと。この構想については、28年
度と考えておりました、その際には議会のほう
からもいろんなご意見をいただいて、つくる、
つくらないというのは最終的には議会の了承
を得ないといけませんので、皆様からもご意
見をいただきながら早急に構想をまとめてい
きたいと思っております。

やっぱりこういった構想を申し上げますと、
いろんな方からいろんな声がございまして、
スポーツジム、フィットネス、TASにはある
んですが、またちょっと違ったものもつく
ったらいいんじゃないかと、あとこれなかなか
難しいと思うんですが、温泉施設もつく
ってほしいとかなどの声がござい
ます。これできるもの
とできないものがあると思
いますので、そうい
ったものを含めてぜひ
来年度に検討してまい
りたいと思
っています。

なお、施設は、総合戦略の計画期間中の平成
31年度までには遅くとも着工したいというふう
に考えてございます。

議員の皆様にも随時ご報告を行い、ご意見を
頂戴しながら進めてまいりたいと思
いますので、よろしくご指
導お願い申し上げたいと思
います。

最後に、中心市街地活性化との関連でござ
います。

平成28年、来年の2月の本申請、3月の採
択を目指して現在内閣府との事前協議を行
って

ります長井市中心市街地活性化基本計画では、計画の区域をフラワー長井線と国道287号線沿線に挟まれた約130ヘクタールというふうにしております。

この区域設定の考え方は、歴史的な古い町並みなども残るそういった商店街や住宅地を含む地域で行政機関や学校、金融、医療機関等々公共性の高い施設が集積していること、現在も多くの方が住まれ、公共施設や商業等への需要があり、今後も中心市街地として維持が必要で、また多様な資源の活用によって新たな長井の発展も可能な地域を設定してございます。

市街地の維持発展の方法は、1日約1万7,000台が通過する、これは国道287号線最大の交通量である、建設が始まる観光交流センター付近より交流人口を市街地に取り込むことと、フラワー長井線の観光への活用をさらに推進するとともに、長井駅前に子育て包括支援センターや先ほど申しあげました多機能型図書館機能等を持った複合施設を設置することで長井駅付近に交流人口と市民双方によるにぎわいを創出しようとするものでございます。

観光交流センターと長井駅付近を中心市街地への入り口である、いわゆる鉄道と国道による人の流れ、その2つの玄関口というふうにして位置づけてまいりたいと思っております。

なお、過日の内閣府とのヒアリングでは、やはり公共的複合施設の整備がちょっとおけると、3年後か4年後、4年後ということでは成果がこの5年間では十分に発揮できないんでないかというような指摘などもありまして、私も内部でございますが、長井駅に駅前のところ駐車場でございます。そこに駅前広場という市の、公園の位置づけではないんですが、広場がございまして、そこを活用してコンテナ広場、コンテナガーデンをつくと。それによってまずはすぐにでもにぎわいをつくっていくと。これはヨークベニマルの撤退というようなことが

あって、タウンセンターをどうするかということとあわせて一体となってまちなかにこれからにぎわいをつくる即効薬でございます。

これ考え方としては、長井駅ですから鉄道の客車や貨車を店として、コンテナガーデンみたいな形で、例えばそこにいろんな、アンテナショップというんじゃないですけども、あるいは飲食、子供の遊べるところとか、そういった市民の皆様のアイデアなども募集しながら市で全体的な設置をして、それを公募にして貸すような考え方で大体ガーデン、コンテナを7つ、8つから10ぐらいまでつくりたいと。これで成功してる例がもう最近出てきたということで、そういったことによるにぎわいづくりも中心市街地の活性化の中に組み入れていきたいと思っております。私のほうから以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 横山賢一建設参事。

○**横山賢一建設参事** 除雪・排雪についての

(2) 排雪の雪捨て場についてお答えいたします。

長井市の排雪場所につきましては、例年東北地方整備局山形河川国道事務所と山形県から占用許可を得て、さくら大橋付近と野川橋付近の2カ所を指定してございます。

占用の条件といたしまして排雪の高さが2メートル未満としなければならないことから、排雪された雪をならす作業が必要となります。昨年度豪雪となったことから、この2カ所の雪捨て場がいっぱいとなり、高さも橋梁近くまでなってしまうことで国及び県から指導を受けたところでございます。

そこで飯豊町さんが上白川橋付近に占用しております雪捨て場の隣に新たに占用申請を行い、占用面積を広げて飯豊町さんと共同で運営を行ったところでございました。借り受けに際し特段費用等は発生しておりませんが、排雪された雪をならして整地する作業は飯豊町さんと協議の上、市で行い、費用を負担したところでござ

います。

議員お尋ねの今年度もお借りする件につきましては、県への占用申請をすれば可能ではあると思いますが、今申し上げましたように整地等を行う必要があります、相当の費用が発生することから直ちに1カ所をふやして3カ所にするというふうなことではなくて、やはり降雪、積雪の状況を見て判断していきたいというふうを考えているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** 私からは、2番目の高齢者世帯の間口除雪のうち現在の対応について、それからボランティアでは限界があるのではないかについてお答えを申し上げます。

まず最初の現在の対応についてというふうなことで、高齢者生活支援除雪サービス事業による高齢者世帯の間口除雪は十分と言えるのかというご質問でございますが、市で実施している高齢者世帯の除雪サービス事業の実績につきましては、議員ご指摘のとおりでございます。いわゆる間口除雪のサービスである高齢者生活支援雪かき事業につきましては、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯で身体が虚弱なため雪かきが困難な世帯につきまして、介護保険における訪問介護サービス等を受ける際に円滑にサービスを利用できるようにヘルパーの自動車の駐車スペース及び玄関から道路までの除雪を行うものであります。

道路の除雪については行政が行いまして、各うちの前に寄せられた雪については各戸及び近隣の皆様やボランティアの協力を得て実施してまいりました。

除雪機を2台配置いたしまして、社会福祉協議会にボランティア団体や地域への貸し出しについて運用委託し、機動的に対応できる体制を整備してまいりましたが、高齢者のみ世帯が2,000世帯を越す現状を迎えておりますので、高齢者世帯を支える仕組みについて検討をして

るところでございます。

次に、ボランティアでは限界があるのではないかというようなことで、社会福祉協議会の除雪ボランティアの実態はどうか、それから福祉あんしん課との連携についてはどうかというふうなことでございますが、昨年度長井市社会福祉協議会で運営する長井市ボランティアセンターの除雪関係の実施につきましては、屋根の雪おろし作業につきまして活動日数が3日、10件、こちらにつきましては企業の方のボランティアというふうなことございましたが、16社76名の方に、取り組んでいただいたというふうなことでございました。

それからおろされた下雪の除雪・排雪作業活動につきましては、活動日数が6日、16件、187名の方、このうち除雪ボランティア登録なされている方が8名ということでございます。

間口除雪につきましては、対応できるボランティアがおりませんので、実績がなかったというような報告を受けております。

福祉あんしん課と長井市ボランティアセンターとの連携でございますが、ボランティアセンターで実施している除雪につきましては、市の除雪事業に該当せず、金銭的に余裕のない方で家族、親族、近隣からの支援を受けられない方を対象としており、高齢者や民生委員の方から相談を受けたときに行政のサービスに該当しない場合はボランティアセンターを紹介する等相互に連携をとりながら可能なサービスについて提供を行っているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** まず雪捨て場の件であります、建設参事の答弁は降雪の状況見てということだったんですが、建設参事は豊田地区南部のほうで、さくら大橋まで遠いということはおよく理解できていると思います。野川にあれば、西根と致芳の方が近いですから利用できると。

ところが建設参事のいらっしゃるところは、さくら大橋から遠く、非常に不便なんです。それをお願いしてるわけですし、降雪の状況見ないでも上白川橋のところに長井市民が堂々と雪を排雪、雪を置けるように検討いただけないかということをお願いしてるんであります。

長井市は、水道の実費相当額として長井市水道料金表従量料金単価ということで、長井市民と同じように飯豊町と同じ単価で提供して、隣同士仲よくやってると思いますので、ぜひ飯豊町と仲よくしていきながら雪を置かせていただけないかと。緑が丘斎場についても飯豊町と長井市で共同運営していて、使用の件数の実績に応じて案分してるわけです。

同じようにやはり市民の利便ということをぜひ考えていただきたいということで、さくら大橋がいっぱいにならないまでも近くの人には本当に近ければわざわざ遠くまで行かないで済むわけですので、ぜひ協議してもらいたいんですが、まず市長にお尋ねしたいと思います。市長も建設参事の近くで、遠いことはよくわかると思いますので、飯豊町に、去年は使わせてもらったわけですが、市長の考え方をここで伺いたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木議員からありましたように、上水道の件では飯豊町さんに対して私どもとしては、いろんないきさつがあったにもかかわらずしっかりと丁寧に対応させていただきました。

建設参事からありましたように、まともに手続しますと1,000万円ぐらいはかかるんですね。26年からことしまでの大雪のときだとこれは必要だとは思いますが、通常だとやっぱりそこ幾ら1,000万円でも削減したいと。その1,000万円があればほかのものいっぱいできるわけですから、そういったことで、虫のいい話ですが、ちょっと大変なときに飯豊町さんに泣きついて、

市民と同じ、町民と同じ利用料で後で市で精算するからちょっと助けてくださいとお願いする手前も、大変なときは、ただ、やっぱり最初から協議してというともうすぐ協議しないと間に合わないと思いますので、その辺のところは現場のほうとももう一度確認しますが、雪の状況だと思いますね、やっぱりね。そういうふうに考えて、せっかくのご提言ですが、少しでも節約したいというのが本音でございまして、雪の状況を見てさせていただければなと思うところ です。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 金がかかると言われると弱いですね。

あともう一つ、白川右岸の築堤によって河川の指定区域が変わったということと、河川区域が変わったということと、あと道路の状況変わったということで、あそこをこれから雪捨て場にできないか。今、ことしすぐでは無理だと思いますが、ぜひ検討していただいて、あそこだったら長井市だし、もっと近くで便利になるのかなと思いますので、ぜひ検討いただけたらと思います。やっぱり金をかからないようにサービスをするというのはなかなか難しいんですが、ぜひ大雪になった場合は対応方よろしくお願ひします。

あとオペレーターの顕彰について、前向きな答弁いただきまして、ありがとうございます。ぜひお願いしたいと思います。

次の高齢者生活支援除雪サービス事業の実施実態というのは、訪問介護時のヘルパーの訪問時の駐車スペースのための事業だということがわかりました。

社会福祉協議会で行ってるボランティアの実態についても丁寧に説明いただいたんですが、たしか社協には除雪機械があると思うんですが、その台数とか実績について先ほど答弁でなかったような気がするんですが、除雪機械ですね、

そのことについて福祉あんしん課長にお尋ね申し上げます。除雪機械の貸し出しですね。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** お答え申し上げます。

長井市からは2台社会福祉協議会のほうに委託をしております。

それで年間ですが、10件ほどというふうなことで、ちょっとはつきりとした数字、今覚えておりませんが、10件から12件というふうなことで、各地域のほうに、団体というふうなところですが、個人への貸し出しはしておりませんが、貸し出しをしたというふうなところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 2台あって、運搬もしてくれて、2人以上の申し込みだったら無料で借りられるということをもう少しPRして、地区でも利用できるようにぜひお願いしたいと思います。

まず社会福祉協議会で行ってる除雪ボランティアの実態については、雪おろしとか雪おろした排雪が中心であるということがわかりました。しかし、8人登録されているということですが、なかなか平日にボランティアで間口除雪までというのは難しいのかなと感じました。

以前行われておりましたさわやかサービスの市から貸与された除雪機械で行ってた除雪サービスが現在行われていません。その課題は何だったのか、福祉あんしん課長に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** お答え申し上げます。

さわやかサービスには以前市内の建設会社さんから寄附していただきました小型の除雪機を無償で貸与いたしまして、対応に当たっていただきました。

しかしながら、運搬に使っていた軽トラック

の手配ができないというようなことがございまして、市のほうに返還というふうなことでなりましたので、現在は社会福祉協議会のほうに委託をしてるというふうな状況でございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** ありがとうございます。いろいろ課題があつて、もうさわやかサービスさんも撤退されたということわかりました。

人口減が本当に地域力の低下を引き起こしているということで、除雪ボランティアにしてもらえればよいんですが、それも限界があるのではないかと。

ボランティアに頼るだけでは高齢者世帯の間口除雪の要望に応えられないと思います。

北海道の美唄市に間口除雪事業の例があります。

美唄市間口除雪事業条例で、70歳以上の世帯と重度身体障がい者世帯に対し、間口除雪サービスを行っています。その内容の概要は、
（1）生活保護法による被保護世帯は負担金無料、（2）前年の合計所得金額と課税年金収入額の合計が80万円以下の者のみで構成されている市民税非課税世帯は1万円の負担金、（3）、（2）以外の市民税非課税世帯は1万2,000円の負担金、（4）市民税課税世帯は2万4,000円の負担金として、平成13年度から実施されています。

長井市でもある程度利用者が料金を負担する支援制度を行うことができないでしょうかというのが私の提案というか、お願いというか、であります。

除雪業者の中には道路除雪で精いっぱいであるということがほとんどであります。まず余力のある除雪業者に依頼する、あるいは団塊の世代などが加入しているシルバー人材センターの活用。そこでお伺いしますが、福祉あんしん課長に伺います。シルバー人材センターで行っ

てる除雪サービス事業の現状はどうでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** お答え申し上げます。

シルバー人材センターでございますが、現在は長井市から委託をしております高齢者支援除雪サービスにつきまして、昨年度の実績は28件でございます。高齢者支援雪かき事業は、25件ありました。そのほかに市内で一般の方からシルバー人材センターのほうで直接受けてる件数が49件というようなことで聞いております。

いわゆる間口除雪につきましては、合計74人の登録者の方が支援に当たったというふうに聞いております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** シルバー人材センターでは74の方が間口除雪の支援をしているということで、こちらのほうにもう少し市でも手をかけて、もっと要望に応じていくことできないかということを考えています。やはり74人では恐らく足りないのではないかと。美唄市では、100件ぐらいの世帯に対して支援行っているということで、シルバーさんでお願いすればそんなに市の持ち出しが多くなっても今実施している形を充実させていくということ検討できないかと思います。

元気な高齢者に間口除雪を平日でもできるようなことは必要だと思います。年金の満額支給が65歳からということで、65歳までは悠々と無報酬のボランティアをしていける時代ではないと思います。ある程度の報酬をお支払いする有償ボランティアの制度をこのシルバーで行っていることに肉づけして、さらに使い勝手がよくて市民が、高齢者が利用できる制度というのは考えられないか福祉あんしん課長に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** お答え申し上げます。

現在先ほど申し上げましたようにシルバー人材センターの会員の方の間口除雪に当たられてる方は74人ということでございますが、これ以上の登録会員をふやすということが、間口除雪に当たる会員をふやすということがなかなか困難であるというようなことで、シルバー人材センターの担当の方からは今がいっぱいいっぱいだというふうなことで聞いております。

また、そのほかのところの業者さんのところもなかなか人材の確保が難しいというようなところがございますので、その辺のボランティアの確保というのがこれからの大きな課題であろうというふうに考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 人材の確保が難しいということではありますが、ぜひ人材掘り起こして多くの方が間口除雪に協力できるようにお願いしたいと思います。

例えば間口除雪で市である程度支出をすれば、財源の問題が出てきますが、財源として介護保険特別会計からの支出も一つの考えだと思っておりますが、その介護保険特別会計からの支出というのができれば、市単独の事業に比べて一般会計の負担が軽くなると思いますが、このことは可能なのか福祉あんしん課長に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 佐藤 隆福祉あんしん課長。

○**佐藤 隆福祉あんしん課長** 間口除雪支援事業につきましては、現在の仕組みの中では介護保険特別会計からの支出はできませんが、今後どういった形であれば支出できるのか検討してまいりたいというふうに思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** ぜひ検討いただきたいと思います。

間口除雪事業基金という創設も考えられるんですが、長井市には地域福祉基金があり、平成

26年度決算現在でこの基金が約4,658万3,000円あります。この福祉基金を活用してこの間口除雪のほうに支出するという事は考えられないのか。また、都会で暮らしている間口除雪を行っている高齢者世帯のお子さんから福祉基金に寄附していただくことも期待できるかなと思いますが、これまで間口除雪で私と福祉あんしん課長とのやりとりを含めまして、市長の考えを伺いたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 間口除雪については、9月議会でも赤間議員初めいろいろご提言ありました。これを建設業者さんをお願いするというのは実質的に不可能ですし、その経費も莫大になるということで、宇津木議員の提案は私も大賛成。

その際に財源をどうするかという問題ですが、基金を活用するという事も重要ですし、ある程度基金はいろんな使い道広げましたんで、例えば保育園なんかで、あるいはいろんな団体、社会福祉団体ですね、バスの購入で支援したりとか、いろんな設備をするときに助成したりとかしてますんで、どんどん目減りするというふうに思ってますんで、基本的には私ども一般会計から毎年それなりの分は積み立てると。プラスしてやっぱりクラウドファンディングみたいな形で目的をしっかりと出して、できればご両親とか親戚がそういうふうに市のほうから応援してもらってるという家族とかからご寄附いただくというのは大変ありがたいなというふうに思ってます。

ですからそういった意味では同じ考えで、これぜひ検討したいと思いますが、あとプラスしてもう一つは、いわゆるNPOとか縦の支援団体を募るといふのと、あとやっぱり地域でやってもらえるところないかというのを模索したい。ちょっと大型の除雪機みたいなものを市で購入して、それを貸与すると、もう地域にずっと預けると。それで年間を通して委託料払って

するというやり方で応じてくれるところがあるといいなと。

問題は、全部無料ではなくて、ある程度有償で、ただそんなに負担にならないようにしないとこれもまずいのかなと思ってますので、その辺の設計、制度設計といいますか、それらについてはぜひこれからも宇津木議員初め議会からもいろいろご提案いただいて、よりよい方法を模索したい。ちょっとことしは無理ですので、来年度に向けて検討していかなきやいけない重要な課題だと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** ありがとうございます。クラウドファンディングは、予算総括でふるさと納税絡みでぜひこっこのほうにやっぱり市長と同じ考えありますので、改めて来るべき予算総括でまたこれ深めていきたいと思っておりますので、今から関係課長にもお願いしておきたいと思えます。

時間も追ってまいりました。ますますふえる高齢者のみの世帯の市民が生涯、安心して長井市に住み続けられるようぜひ検討・研究していただきたい。新たな事業ですから、一気に実施するのは難しいとしたら、モデルケースで部分的に実施することも一つの手法だと思います。

福祉あんしん課長は、ずっと長く福祉関係におられて、前の福祉事務所でグランドスラムも達成されましたし、もう私は今の課長がいるときにぜひこれを進めていただきたいと大いに期待しておりますので、知識もあるし、突破力もあるということで、本当に佐藤課長には期待するもの大きく思っておりますので、ぜひ前向きに取り組んでいただくようお願い申し上げます。

あと灯油購入助成事業については、高齢者が暖かい冬を過ごせるよう、県のほうでも半分負担ということですので、県の情報収集というのをしっかりとさせていただいて、ぜひ26年度同様県が実施する場合は長井市も実施されるように

体制をとっていただきたいというふうにお願いします。

時間があれば、新たな子育て支援センター・図書館等の複合施設の構想について質問していきたいのですが、あした朝一番に平議員が続きをしてくれるようですので、あとは平議員のほうにきょう出た話を深めていただきたい。お任せしますので、私のほうからは、時間まだちょっとありますが、中途半端ですので、ここでやめたいと思います。どうもありがとうございました。

散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日は、これをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 4時06分 散会